

説教題：「逃げ腰でなく」

聖書箇所：ローマの信徒への手紙 12章6節—8節

「わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。」

今お読みしたところで、「賜物」という言葉が出てきました。この言葉はギリシャ語では $\chi\alpha\rho\iota\sigma\mu\alpha$ (カリスマ) という言葉です。そして、英語では gifts です。すなわち、神様が私たちに与えてくださった恵みの贈り物を賜物というのです。カリスマというと、ひところはやったカリスマ美容師が有名です。皆さんは多分カリスマ美容師に髪の毛をカットしてもらっていることでしょう。私もカリスマ美容師に髪の毛をカットしてもらいたいのですが、根が貧乏性なものですから、1000円ぐらいの料金の散髪屋に行っています。そのような散髪屋のカットの仕方は、大体はさみをまっすぐ横に入れてきます。私の伸びた髪の毛をぐっと驚ぶかみにして、横一文字にぱっさり切ります。その結果は、なかなか格好よくはなりません。もちろん私の顔も頭も髪の毛も素材が悪いのですから贅沢は言えません。その点皆さんの髪の毛を見ていると、カリスマ美容師にきってもらっているのが良く分かります。カリスマ美容師の特徴は、はすかいにはさみを入れるところではないでしょうか。もしくは、斜めにはさみを入れているように思います。あのカリスマ美容師たちは、学校の成績はどうだったか知りませんが、ある時、神様が彼らに下さった髪の毛を切るセンスに気づいたのでしょう。髪型に対するセンス、髪の毛の切り方のセンス、それらの全てにおいて自分に与えられた神の賜物に気づいたのでしょう。

ことは美容師に限りません。あの野球のイチロー選手は、野球の選手として、神様が自分に下さったプレーをするセンスに気づいたのでしょう。その他、例を挙げればいろいろありません。

それでは、カリスマに気づいた人の特徴は何でしょうか。それは、いただいたそのカリスマ、すなわち神様の恵みの贈り物を十分に生かそうと前向きに生きていることです。カリスマ美容師の仕事ぶりは生き生きとしていて、お金のためにいやいや働いているようには決して見えません。人の髪の毛を切ることは、また髪形を整えることがうれしくてたまらないように見えます。イチロー選手は、いやいや野球をやっているようには見えません。もちろんスランプが訪れたりして、厳しい状況の中で、険しい表情のときもありますが、あくまでも前向きに、ひたむきにプレーをしています。そして、あのようプレーし続ける人は幸せでしょう。

あなたのカリスマは何でしょうか。神様はあなたにどんな恵みの賜物を与えてくださっ

ているのでしょうか。あなたはそれが何であるかに、もう気づいておられるのでしょうか。もちろん誰もがカリスマ美容師になれるわけではありませんし、そんな必要はありません。誰もがイチローのように野球をする必要もないでしょう。ただ彼らのあり方は、私たちの参考になります。私たちが、いやいやしぶしぶ何かをしているなら、それは神の与えてくださった恵みの賜物に気づいていない消極的な生き方です。そうです。自分に与えられた恵の贈り物に気づくなら、私たちの行き方は逃げ腰で無くなります。

初めにお読みした聖書の箇所にあったように、人にはさまざまな生き方があります。ある人は人に奉仕をします。またある人は、人に教える仕事をします。またある人は、人に何をなすべきかを勧めます。またある人は施しをします。そして、指導する人もいれば、慈善を行う人もいます。それらは、それらのことを為す人が神に与えられた恵の贈り物に気づいて、それを十分に生かすとき、喜んで生き生きと行われます。もしそうでなければ、どんな仕事も、私たちは逃げ腰で行うことでしょう。逃げ腰の人生は不幸です。

斯く言う私も、神様が私に与えてくださった恵みの贈り物、すなわち賜物とは何だろう、私のカリスマとはなんだろうかと考えて見ました。学校で教えることは私のカリスマだろうか。教会で説教することは私に与えられたカリスマだろうか。そして、正直言って、何がなんだか分からなくなりました。ただ、これだけは言えます。私が神様から与えてほしい賜物は、人を愛する愛です。私の出会う人を全て愛する愛です。それさえあるならば、出会う全ての人のためを思って、その人が喜んでくれるようにという姿勢で時々刻々行動できるでしょう。私は、そのためにこの全身全霊を全て使い果たすでしょう。その時、私の人生は完全に逃げ腰でなくなるでしょう。残念ながら、現在の私の日々は十分逃げ腰だと告白せざるを得ないのです。

この点において、思い出されるのは、いつかも取り上げた宮沢賢治です。宮沢賢治に次のような言葉があります。私はこの言葉を、学校の講義でもよく引用するのですが、ここでもまた引用させていただきます。「農民芸術概論綱要」と題された文章の序論で宮沢賢治曰く、

「……われらはいっしょにこれから何を論ずるか…… / おれたちはみな農民である ずみぶん忙がしく仕事もつらい / もっと明るく生き生きと生活をする道を見付けたい / われらの古い師父たちの中にはさういふ人も応々あった / 近代科学の実証と求道者たちの実験とわれらの直観の一致に於て論じたい / 世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」

宮沢賢治のこの論法で行くなら、私たちは自分の賜物だけを活かして得々としていることはできません。周りの皆がそれぞれの賜物を活かして逃げ腰でない生活をするようになってこそ、私たちは自分の賜物を本当の意味で活かしたことになります。

ところで、最後にマタイによる福音書 25 章 14 節以下 30 節までのタラントのたとえ話にも触れておきます。ご承知の通り、「旅に出かけ」て、やがて「かなり日がたってから」「帰ってき」た「主人」であるキリストが再臨される時まで、神から与えられた賜物を増やさねばならないというたとえ話です。こうです。

「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力の応じて、一人には 5 タラント、一人には 2 タラント、もう一人には 1 タラントを預けて旅に出かけた。早速、5 タラントを預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに 5 タラントをもうけた。同じように、2 タラントを預かった者も、ほかに 2 タラントをもうけた。しかし 1 タラントを預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。さてかなり日がたってから、僕たちの主人が帰ってきて、彼らと清算を始めた。まず 5 タラントを預かった者が進み出て、

ほかの5タラントンを差し出して言った。『御主人様、5タラントンをお預けになりましたが、ご覧ください。ほかに5タラントンをもうけました。』主人は言った。『忠実な僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』次に2タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、2タラントンをお預けになりましたが、ご覧ください。ほかに2タラントンをもうけました。』主人は言った。『忠実な僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』ところで1タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。ご覧ください。これがあなたのお金です。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰ってきたとき、利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、10タラントン持っている者に与えよ。だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。』」

本日の説教に即して申し上げるならば、私たちが「タラント」を活かして「もうける」ということは、自分の才能を活かすということに留まらず、自分の回りの人々全てがそれぞれの才能を活かして日々あらゆることに逃げ腰でないような生き方に進んで行くように祈ることだということになるでしょう。祈ります。

祈り 神様、私たちに愛の賜物を与えてくださり、逃げ腰の人生から救い出してください。この祈り、主イエス・キリストのみ名によってみ前にお捧げいたします。アーメン。